

【令和8年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第三中学校

【国語】

■生徒の状況	・各学年ともに、授業に集中し落ち着いて授業に取り組んでいる。（7年約93%、8年約90%、9年約93%）また、全学年6割～9割弱の生徒が授業で習った内容は理解できていると答えている。一方で、家庭で、授業の予習や復習をしていると答えた生徒は各学年の半数以下という結果になった。理解はしているが、漢字語句、文法などの基礎基本の定着につながらない理由につながっている。 ・リーディングスキル（読み解く力）については、「同義文判定（2つの文が同義か否か）」が例年同様、平均を下回っている。
■指導についての課題	・身につけた漢字や語句の知識が活用できていない。 ・語彙力を豊富にするため、短文作りを通して、用法が理解できているかなどの言語活動を取り入れる必要がある。 ・リーディングスキル（読み解く力）を身につけるために、特に課題としている「同義文判定」を授業の中で取り入れる。例えば、2つの文を比較させ、同義か否かを考える時間を設けることが重要である。 ・自分の考えの根拠を明らかにして作文を書いたり、スピーチをしたりすることへの抵抗をなくすことが求められる。 ・家庭学習の習慣化を図り、定期的な漢字テスト（漢字練習）などを通して、基礎学力を定着させる必要がある。 ・全国学力調査（9年）の平均正答率〔（ ）の値は都平均【 】は全国平均〕は、全体でいうと56と全国平均【54.3】と上回っている。しかし「知識・技能50.8（51.7）【48.1】」と全体の平均を下回った結果になり、文脈に即して漢字を正しく使うことができる、事象や行為を表す語彙について理解しているかが課題となっている。その一方で「思考・判断・表現56.9（58.1）【55.3】」であり、知識・技能を上回っている。しかし、思考・判断・表現の中でも「書くこと53.2（56.5）【52.8】」となっており他の「話すこと・聞くこと」「読むこと」と比べて平均正答率が低い。必要な情報を集め整理し、伝えたいことを根拠をもとにして明確にすることが課題である。それに伴い、記述式の問題形式では26.3（28.2）【25.3】と文章にして答える問題について苦手な傾向が見られる。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・「高3中授業スタンダード」に基づき、授業の目標を明確にする。 ・目標の範囲を決めて漢字や文法事項を習得するための反復練習やテストを実施し、家庭学習の定着を図る。 ・辞書で語句を調べ、短文作りや作文、スピーチなどで活用する習慣を身につけさせる。 ・自分一人で考えをもつ場面、意見を交換して考えを深める場面を設ける。そうすることで、様々な表現方法を知ること視野を広げ、相手に伝えたいことを正確に伝える力を身につけ、言語能力を高めていく。 ・様々な意見を出し合い（単元によってはChromebookを活用し、生徒全体で共有する）、教科書の文章に書かれているものと同義か否か（同義文判定）を考える時間を設け、読み解く力（読解力含む）を身につけさせる。 ・朝読書などを通して、読書活動を推進することにより、語彙力を楽しみながら身につけさせる。

【社会】

■生徒の状況	・7年:93.2%の生徒が授業に集中しようと努め、88.5%の生徒が授業を理解していると答えている。 ・8年:96.2%の生徒が授業に集中しようと努め、73.6%の生徒が授業を理解していると答えている。 ・9年:88.8%の生徒が授業に集中しようと努め、66.1%の生徒が授業を理解していると答えている。
■指導についての課題	・家庭や授業でChromebookを学習に活用している生徒が、7年:47.1%、8年:23.9%、9年:34.4%であり、学年によって差はあるがあまり活用できていない。今後Chromebookを活用しての授業を増やしていくこと。 ・家庭で授業の予習や復習をしている生徒が、7年:63.1%、8年:32.0%、9年:56.0%となっており、学年によって差はあるが家庭での学習を定着させていくこと。
■授業革新推進に 向けての具体的な方策	・生徒の興味関心にうったえる授業を展開するために、デジタル教科書やICT機器等、多くの視覚的な資料を用いる。また、教科書の読み取りをさせることで、基礎的、基本的な内容をしっかり把握させ、興味や関心につなげていく。 ・情報の収集や、協働的な学習では積極的にChromebookを活用していく授業の工夫を行う。 ・家庭での学習が定着するようにワークシートやノートの作成の仕方を工夫するよう指導していく

【数学】

■生徒の状況	・各学年とも、授業に集中しようと努めている。 (7年:94.3% 8年:95.3% 9年:97.4%) ・各学年とも、主体的に授業に取り組んでいる。 (7年:94.3% 8年:92.4% 9年:93.9%) ・授業で習った内容を、7年は78.6%、8年は79.2%、9年は88.8%の生徒が理解できている。 ・授業に対する姿勢の高さに対して、家庭学習の実践率が低い傾向にある。(7年:73.1% 8年:58.5% 9年:64.7%)
■指導についての課題	・家庭や授業でChromebookを学習に活用していると答えた生徒が、7年は52.8%、8年は30.5%、9年は25.8%にとどまり、活用実態・実感が低い現状にある。 ・授業中の理解度や集中度は高いものの、自主的な予習・復習の割合が低く、授業内の理解を知識の定着へとつなげることができていない。 ・全国学力調査(9年)の平均性問率は全国57%に対して、59%となっており、少し上回っているものの、都平均62%より下回っている。特に、データの活用では、全国53.5%の正答率に対して、51.3%と下回る結果となり、データの分析や活用の仕方などが身につけていないことが課題である。
■授業革新推進に 向けての具体的な方策	・授業スタンダードに則り、毎時間の終わりに学習のまとめや振り返りの時間を確実に設定し、学んだ内容の定着と課題の明確化を図る。 ・データの活用や図形・確率などの単元をはじめ、Chromebookを活用

	用してデータを収集・分析したり、考えを視覚的に共有したりする場面を意欲的に計画・実践する。 自分の考えを持ち、記述・発表する活動を継続させるとともに、得た知識をしっかりと定着させる指導を充実させる。
--	--

【理科】

■生徒の状況	・7年は93%（93%）、8年は98%（98%）、9年は94%（96%）が授業に集中しようと努めていると回答。 ・7年は95%（87%）、8年は95%（98%）、9年は93%（90%）が授業に主体的に取り組んでいると回答。 ・7年は72%（54%）、8年は46%（72%）、9年は53%（55%）が授業の予習や復習を行っているという回答。（*カッコ内は昨年度の数字） ・授業へ集中は全学年で93%以上であり、授業への主体的な取り組みの数値も高く、前向きで落ち着いて授業に取り組んでいる。家庭学習に関しては7年は良好だが、8、9年に関しては、5割近くの生徒が取り組めていない。
■指導についての課題	・7年は89%（82%）、8年は88%（88%）、9年は85%（82%）が興味・関心がわき、さらに学びたくなるような授業であると回答。 ・7年は37%（20%）、8年は30%（28%）、9年は21%（23%）が家庭や授業でタブレット端末を学習に活用していると回答。 ・7年は89%（66%）、8年は80%（88%）、9年は78%（78%）が授業で習った内容を理解できていると回答。（*カッコ内は昨年度の数字） ・学習内容の理解は1学期の実施単元にもよるので、単純に比較するのは難しいが、学習内容が難しくなる高学年ほど数値が低くなっている。7年生に関しては、大幅に上がっており、生徒の実態に合わせた授業進行ができていると考えられる。授業への興味・関心の数値は比較的高く、昨年度より若干上がっている。 ・タブレット端末の活用に関しては、様々な試みを行ってきたが、その結果、毎時間使うという活用方法にはなっていない。そのため、どの学年も低い数値になっていると考えている。引き続き有効な活用場面での使用を増やしていくとともに、教員のさらなる活用能力の向上を目指したい。 ・8、9年に関しては2割前後の生徒が授業の内容を十分に理解できていない。タブレット端末の活用の度合いと興味・関心や内容理解と単純には連動していないが、ICT機器の有効な活用も含め、生徒の興味・関心をさらに高め、内容の理解が進むよう丁寧な授業の展開をしていく必要がある。
■授業革新推進に向けた具体的な方策	・生徒の興味・関心をさらに高め、内容の理解が進む授業の展開をしていくため、以下の3点に特に力を入れる ① 「高三中授業スタンダード」に基づき、毎回の授業の目標や流れをしっかりと明示するとともに、中心にある学習内容を 個々が認識して取り組むとともに、まとめに特に力を入れ、その日の学習内容の定着を図る。 ② 視覚的な情報の有効活用、協働的な学習や個別最適な学習を進めるためにICT機器の活用を引き続き試みる。 ③ 実験や観察を大切に、実体験で得られた生きた知識をもとに、原

	理や法則を主体的に思考していく授業展開をさらに工夫していく。 ・家庭での予習、復習でできることを具体的にアドバイスするとともに、その効果を実感できるような評価方法を工夫する。
--	--

【音楽】

■生徒の状況	・ワークシートなど、学習に意欲的に取り組む生徒が多く、授業アンケートの授業準備・授業への集中については各学年とも95%の生徒ができていると答えている。 ・歌詞の内容を理解する学習を展開している。 ・特に第8、9学年は歌唱における基礎基本が身についてきている。また、意欲や希望をもって取り組もうとしている姿勢がある。 ・第7学年は、意欲の高まりが見られるが、ワークや記述には課題がある生徒も見られる。 ・第9学年は、落ち着いて授業を受け、指示に対して積極的にメモをとるなど、学習への意欲の高まりが見られる。
■指導についての課題	・音楽室内の必要な機器が揃っていないので、機器の充実を図る。 ・探求型の授業においてポイントを絞った指導計画で展開する。 ・歌唱だけではなく実技への取り組み（鑑賞・創作）を実践する。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・歌唱については、コロナ対応ではなく、音楽的に考え並び方の工夫をして、短期間でも取り組めるように、選曲を考える。従来通りの混声三部合唱に取り組む。 ・基礎的・基本的な知識理解を定着させ、正しい技術を身に付けられるように指導の工夫をし、ICT機器を用いてパワーポイントを駆使し、視覚に訴える授業、わかりやすい授業づくりを工夫し、展開する。 ・授業の中で「目標」と「振り返り」を明確にし、言語活動を取り入れて学習の定着を図る。

【美術】

■生徒の状況	・各学年とも落ち着いて、90%以上の生徒が授業に主体的に取り組んでいる。また、80%近い生徒が授業で自分の考えをもち、深めるように努めていると回答している。 ・第7学年では、新しいものの見方から得られる発想や構想を形や色彩で自由に表現し積極的に美術に親しみ取り組んでいる。 ・第8学年では、伝えたいイメージを作品にこめて発想や創意工夫して丁寧に作品を仕上げることを目標に積極的に美術に親しみ取り組んでいる。 ・第9学年は、これまでの学習活動を生かし、より多様な自己表現を取り入れ試したり悩んだり、じっくり取り組み完成度の高い作品を目指し積極的に取り組んでいる。
■指導についての課題	・全体的に美術を愛好し、積極的に作業に取り組んでいるが、中には不得意な作業があり課題が進まない生徒もいる。そのことからPCを使い個々の能力に応じたレベルでAIを活用し、楽しく取り組めるように声かけなどを行いながら、最後まで考えることを楽しめるような題材と指導の工夫がさらなる課題であると考えている。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	・全体的に美術を愛好し、積極的に作業に取り組んでいるが、中には不得意な作業があり課題が進まない生徒もいる。「高3中スタンダード」を軸に、一人一台のタブレットPCや電子黒板、実物投影機等のICT機器を有効に活用して「分かる、できる、楽しい」授業を推進するとともに

	に、基礎・基本の定着を図り、主体的に学習に取り組めるようにする。 また引き続き授業プリントなど教材を Classroom にあげることにより、休んだ生徒や復習を必要とする生徒の学習に対応をする。
--	--

【保健体育】

■生徒の状況	各学年授業に集中して務めるが90パーセントを超えており、積極的に取り組んでいる。授業で自分の考えをもち深めようとする生徒も80%を超えている。
■指導についての課題	家庭や授業でクロムブックを使用しているがあまりあてはまらないが60%をこえているため活用できる指導を考えていかなければならない。また、生徒が自分の意見を発表する場面がある。が9・8年生のとてもあてはまるが30%程度になっているので改善の必要がある。
■授業革新推進に向けての具体的な方策	保健の時間では調べ学習を授業に組み込み、体育の時間では動きの撮影でクロムブックを使用できるようにする。 活動時間をしっかりと確保しつつ、生徒に自分の意見や考えをまとめる時間や発表する時間を作っていく。

【技術・家庭】

■生徒の状況	【技術】 ・授業に集中しようと務めている⇒7年:94%、8年:97%、9年:92%と、各学年ともに落ち着いて取り組んでいる。 ・興味関心がわき、さらに学びたくなるような授業である⇒7年:75%、8年:80%、9年:67%と、1学期中は実習があまりできなかったため低い評価になっている。 ・授業に主体的に取り組んでいる。⇒7年:96%、8年:91%、9年:94%と、積極的に授業に参加している生徒が多い。 【家庭】 ・授業に集中しようと努めている⇒7年:96.2%、8年:93.3%、9年:95.7% ・主体的に取り組んでいる⇒7年:96.2%、8年:92.4%、9年:91.3% ・習った内容を理解できている⇒7年:89.5%、8年:86.8%、9年:86.0% ・ほとんどの生徒が授業に集中し、主体的に取り組んでいると回答している。前向きな生徒が多い。 ・全学年8割以上の生徒が習った内容を理解できていると回答しているが、昨年度より割合が下がっている。 ・8年は被服実習の授業が中心であり、苦手な生徒が目立った。 ・9年は定期考査の習った知識を活用したり応用させたりする問題の正答率が他の問題と比べて低く、理解できなかったと感じる生徒が増えたことが推測される。
■指導についての課題	【技術】 ・授業に集中しようとしているため、生徒が学習内容を理解して、生徒同士が協力して実践できるような授業改善が必要である。 ・主体的に取り組んでいると考えている生徒が多いため、生徒同士で話し合い協力をして、生徒が主体的に取り組める授業改善を実施していく。 【家庭】 ・「まとめ」の時間を十分に確保できていない。

	・Chromebookを十分に活用した授業展開をできていない。
■授業革新推進に 向けての具体的な方策	【技術】 ・興味関心がわく授業を実施するために、タブレットパソコンなどのICT機器の活用など更に工夫をしていく。 ・生徒が理解しやすいような説明の工夫を実践するため、説明に時間をかけて生徒が理解できるように工夫をする。そして、授業の最後には、しっかりまとめができるように、授業の組み立てを工夫していく。 【家庭】 ・まとめの時間を十分に確保する。ワークを活用し、生徒が主体的にまとめられるようにする。 ・教科書のデジタルコンテンツや栄養計算ツールなどを積極的に活用する。家庭科部会などで情報を収集する。

【外国語】

■生徒の状況	・授業に集中しようとしている⇒7年:95.3%、8年:93.3%、9年:90.5% ・自分の考えを深めようとしている⇒7年:90.5%、8年:87.6%、9年:82.6% ・主体的に取り組んでいる⇒7年:95.2%、8年:89.6%、9年:88.7% ・習った内容を理解できている⇒7年:86.8%、8年:75.2%、9年:74.2% ・多くの生徒が授業に集中し、主体的に学習に取り組んでいる。 ・習った内容に基づいて、自分の考えを深めようと努力している生徒が多くいる。 ・全国学力・学習状況調査によると、「聞くこと」について、全国平均より、0.1ポイント高い結果が見られた。
■指導についての課題	・授業の終わりに「まとめ」を行っている⇒7年:59.5%、8年:42.8%、9年:39.7% ・授業でChromebookを学習に活用している⇒7年:38.7%、8年:53.3%、9年:53.4% ・「まとめ」の時間を十分に実施できていない。 ・一人一台端末の活用については、学年毎の差はあるが、活用についてさらに考える必要がある。 ・全国学力・学習状況調査によると、「読むこと・書くこと」については、全国平均の値だが、東京都の平均よりも0.4ポイント低くなっている。
■授業革新推進に 向けての具体的な方策	・授業の最後にまとめの確保が難しい場合は、次の授業の最初に「前回やったことは何だったか。」を確認させるようにする。 ・一人一台端末について、スライドを使って発表の機会を設けたり、World Classroomの活用場面を増やしたりしていく。 ・書くこと・読むことの力を高めるために、聞いた内容について読解する時間を作ったり、聞いた内容について書く時間を確保したりすることも必要である。